

# Book Review

## 臨床家のための 口腔粘膜疾患 Check Point

神部芳則・出光俊郎・槻木恵一 編著



Reviewer

中村誠司 Seiji Nakamura

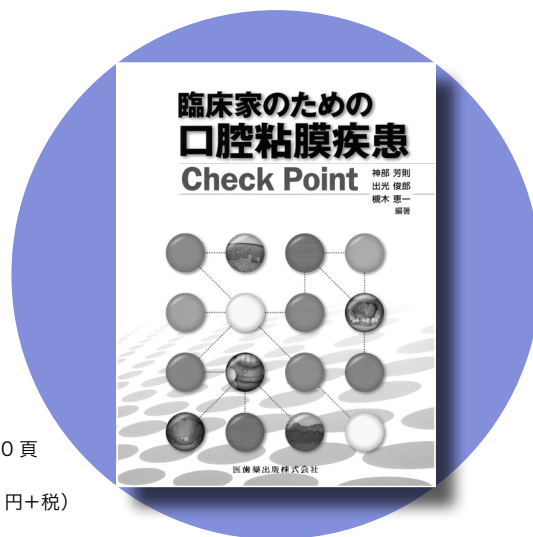
(日本口腔内科学会 理事長)

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野 教授

九州大学病院 副病院長 (統括・歯科担当)

九州大学病院 顎顔面口腔外科 科長)

A4判変, 160頁  
オールカラー  
定価 (8,500円+税)  
医歯薬出版刊



このたび、「臨床家のための口腔粘膜疾患 Check Point」という、臨床家の日々の臨床に役立つ素晴らしい書が出版されました。私は口腔粘膜疾患を主な対象とする日本口腔内科学会の理事長を務めていますので、この分野の専門家の一員として、本書の優れた点を述べさせていただきます。

日本口腔内科学会では、口腔内科を「歯科患者の口腔だけに視点を向けず、大局的立場に立ち、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、外科的なアプローチを主体とせず、口腔の医療にあたるもの」と定義しています。日本は世界でも有数の超高齢者社会となり、昨今は単なる長寿ではなく、健康寿命の延伸が重要な課題となり、われわれを取り巻く環境が大きく変化してきています。その変化の一つとして医学的に問題のある患者 (medically complex patient) の増加があげられ、全身的背景を考慮したさ

まざまな口腔疾患、特に本書が焦点を当てた口腔粘膜疾患に遭遇する機会が増えてきています。このように、口腔内科の重要性や必要性は急激に増してきているのは間違いありません。口腔の専門家であるわれわれ歯科医師は、口腔粘膜疾患を的確に診断して対応するという新たな役割が強く求められていると思います。

本書は、まず初めに、口腔粘膜疾患を理解するための基本的事項がとてもわかりやすくまとめられています。次に、日々の臨床で遭遇する機会が多い口腔疾患について、口腔を5つの部位に分けて示されています。多くの教科書では、口腔粘膜疾患を網羅的に解説する必要があるために症状別に分類されていますが、本書では部位別に分けられているのが特徴です。頻度が多い疾患をわかりやすく、そして明日からの日常歯科臨床にすぐに役立つ、より実践的な内容になっていると思いま

す。後半部分では、全身疾患と関連した口腔粘膜疾患について総論的に解説されています。前述のように、全身疾患をもつ患者は増加してきていますので、本書のような切り口の解説はとても役立つものと思います。

さらに、本書の特筆すべき特徴として、とても多くの口腔粘膜疾患の病態写真が示されていることがあげられます。口腔粘膜疾患の診断には視診がきわめて重要ですので、繰り返しになりますが、明日からの日常歯科臨床にすぐに役立つ実践的な書になっていると思います。

このように、本書の内容は、経験の浅い歯科医師にはもちろん、かなりの経験を積んだ歯科医師にとっても大変有益であると思います。本書を独習書として読んでいただければ、多くの読者の日常歯科臨床のお役に立てると確信しており、自信をもって本書を推薦させていただきます。